

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700832		
法人名	社会福祉法人豊中福祉会		
事業所名	グループホームとよなか		
所在地	香川県三豊市豊中町笠田竹田697-1		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/37/">http://www.kaigokensaku.jp/37/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成28年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとよなかは、緑あふれる田園地帯のどかな場所にあり、当法人には特別養護老人ホーム、デイサービス、老人介護支援センターが併設されている。近隣には高校、中学校、幼稚園があり、折に触れて交流を図ることができている。またご利用者の要望に可能な限り応え、外出支援にも力を注いで満足を得ることができている。食事は新鮮な食材を選ぶところからご利用者とともに作り、調理、盛り付け、配膳、後片付けまで、ご利用者の持っている能力に合わせて役割として取り組んで頂いている。毎年5月には地域の方を招いて『わきあい愛会』を開催し、地域のボランティアの方々とともにバザーや出し物で交流を図っている。また、ご家族とも行事や家族会を通して良好な関係を築くことができ、面会時や毎月初めの書面による状況報告、必要に応じた電話報告を行って情報を共有し、ご利用者本人とともに支え合う関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、穏やかな田園風景の広がる場所に位置している。敷地内には、同法人の特別養護老人ホーム、デイサービス、老人介護支援センターが隣接している。法人内施設間で情報を共有し、協力体制を整備している。利用者一人ひとりの思いを重視し、暮らし方の希望や意向を把握し、利用者の思いに寄り添った支援を目指している。毎年5月に、地域ボランティアの協力を得て『わきあい愛会』を開催し、たくさんの地域住民の参加があり、地域交流の場になっている。職員は積極的に研修会に参加し、利用者一人ひとりの思いを尊重した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊中福祉会の基本理念を具現化することで、言葉に込められた意味を十分理解し、福祉施設サービスを通して地域貢献を果たせるよう日々努力している。また理念に沿った事業計画を立て、それらを職員が共有して個々の目標とし、実現できるよう努めている。	法人の基本理念をもとに、事業所独自の理念を作成し、その理念に沿った年間計画を立案し、目標管理を実践している。理念を掲示し、職員が理解し共有できるようにしている。また、日々のケアの中においても、職員間で話し合い実践に繋げている。	目標や計画が長い文章表現になっているので、わかりやすい表現や項目によっては数値目標などを取り入れるなどの工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている年4回の地域の奉仕作業に参加している。(川さらえ2回、空き缶拾い2回)また、今年度で3回目となった地域交流事業「わきあい愛会」に地域の方や子供たちを招待し、地域のボランティアの方々と共に、バザーや出し物を披露したり、ミニ運動会などを行うことで、交流の場が持っている。	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の方に挨拶や会話をしている。また、近所の方が、野菜などを持って気軽に立ち寄ってくれている。自治会には加入していないが、地域住民の一員として地域の奉仕活動に積極的に参加し交流している。毎年、事業所主催で「わきあい愛会」を地域のボランティアの協力を得て開催し、多くの地域の方の参加があり、地域交流の機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人の支援センターが主催する「介護者教室」において、地域の方に向けた認知症の理解や支援の方法についての勉強会を開催している。グループホームの職員も共に参加し、おやつを作ったり、栄養指導とともに受けた。介護されているご家族の悩みを聞き、普段の介護実践を活かし、ご家族にアドバイスも行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、地域代表の方、そしてご家族にも参加いただき、行事やサービス内容、グループホームの取り組み状況について報告、情報交換を行っている。会議でいただいた率直な意見や情報は、職員に周知して、運営に活かし、サービスの質の向上につなげている。	利用者家族全員に運営推進会議を案内し、毎回5～10名程度の家族が参加している。家族以外では、自治会長、民生委員、老人クラブ会長、行政職員が参加している。事業所の現況や取り組みを報告し、課題等について話し合い、参加者から率直な意見をもらいサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が定期的に市役所に出向き、市担当者との連絡を取っている。また運営推進会議にも参加いただいております。その際に取り組みや実情を報告し、アドバイスをもらったり、市の新しい動向や取り組み内容を教えていただき情報収集を行っている。	管理者は、行政担当者と定期的に協議する機会を持ち、事業所の現況やサービス等について、報告や相談をしている。行政担当者には、事業所の運営について、誠実に対応してもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が中心となり、「身体拘束ゼロへの手引き」にて勉強会を実施し、身体拘束の対象となる具体的な行為について正しく理解できるように努めている。また、「言葉による拘束」についても、言い換え等を検討したり、目標を設定して朝礼で唱和することで、意識向上を図っている。現在、身体拘束にあたるような方はいないが、身体拘束にならないための取り組みとして、日々の生活の中で制限となっている事柄について、生活改善策を立案して、実施し、定期的に見直すことで、ケアの質の向上に活かしている。	法人全体でも取り組んでいるが、事業所内では身体拘束廃止委員が中心になり、勉強会を実施し、職員が正しく理解し、介護に活かせるように取り組んでいる。今年は「言葉による拘束」について意識調査を行い、課題を抽出し、目標を設定して、話し合ったり、朝、唱和することで共通認識を図っている。事業所では、玄関は施錠せず、安全に配慮しながら、利用者が自由な暮らしを送れるように支援している。また、近所の方の理解もあり、見守りや声かけ、連絡してもらえ関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体では、リーダー会で勉強会の内容の検討や取り組みについて協議し、結果を職員に周知している。虐待の意識アンケートや高齢者虐待関連法に関する勉強会を実施することで、全職員が何が身体拘束で何が虐待にあたるか、どう対応したらよいか考える機会を持つようにしている。また「不適切なケア」について具体的な事例をあげ、存在しないか互いに検証しあうことで、「虐待の芽」を摘み、早期対応に努めている。グループホーム内でも2か月に一度、ケア会議時に虐待防止に関する勉強会を実施して、定期的に学び考える機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいることから、外部研修に参加した職員から伝達研修を行い、全職員で権利擁護や制度について学ぶ機会を設けた。また、リーフレットを職員で回覧し、知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いて、グループホームの特徴や利用料金などの説明を行い、ご本人やご家族に理解、納得していただけるように努めている。本年度は介護保険制度および介護報酬の改訂、当グループホーム利用料金の改定があり、報酬加算の必要性や料金改定の理由を、運営推進会議や家族会において十分説明し、理解や納得を図ることができた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議や家族会などで出てきた意見や、日々の面会時のコミュニケーションから得た意見や要望を、代表者に報告し運営に反映している。また、ご入居者の要望も聞き、サービス向上に努めている。ご家族とも意見を言いやすい関係づくりに、日々努めている。	2か月毎に開催する運営推進委員会や年5～6回開催する家族会に多くの家族等の参加があり、率直な意見や要望を聞く機会となり、出された意見や要望は運営に反映している。家族には、利用者の近況報告を書面で毎月1回知らせている。また、家族の面会時には話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ケア会議で職員同士の意見交換を行い、意見や提案を聞いている。出てきた意見は、皆で話し合い運営に反映させている。また、職員間で意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。	毎月1回ケア会議を開催し、職員の意見を聞き、話し合っている。日頃からコミュニケーションをとり、話しやすい環境作りに努めている。職員からの意見や要望は、話し合い運営に反映させている。目標管理を推進し、年3回個人面接を実施し、職員一人ひとりの意見を聞く場を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標参画、OJTシートを取り入れ、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。また代表者が、管理者や職員の意見、要望に耳を傾け、働きやすい職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を把握し、個々に合った内容やレベルの法人内外への研修会へ参加を促し、スキルアップを薦めている。研修してきた内容は、ケア会議で伝達研修を行い、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会で定期的に実施されている研修に参加し、意見交換の場において他事業所および同業者との交流を図り、ネットワークづくりに努めている。また、地域の同業者による「認知症を学び支える会」に、毎年当法人内から実行委員を派遣し、交流を図っている。また、その勉強会にも参加し、他事業所主催の研修に招かれ参加することで、互いに知識を深め、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人に関する情報把握に努め、思いや要望、不安なことを十分に聞き取り、ケアプランに反映させている。また安心して生活していただけるよう支援し、よりよい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っていること、不安や要望をしっかりと汲み取り、安心して利用できるよう、信頼関係づくりに努めている。また、些細なことでも遠慮せず、何でも相談に応じられる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時は、ご本人やご家族が何を求めているのか、ご本人に何が必要か、ご本人を十分理解し、見極められるよう話を聞き、観察を行っている。また、必要に応じて、他のサービスの利用について検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活を共にする者として毎日を大切に、その人に合った楽しみや話題づくりに努めている。また個々の有する能力を発揮してもらい、互いに共感でき、支え合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運営推進会議の際に、グループホームの取り組みや実情を伝え、また日々の面会時にも積極的にコミュニケーションを図ることで、職員とご家族がともに手を取り、ご本人を支えていけるよう、良好な関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域で散歩、外出、買い出しに積極的に出掛けている。また個別ケアとしてご本人やご家族と相談して、慣れ親しんだ場所や自宅、若かりし頃に過ごした思い出の場所に行く機会を設け、馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者がこれまで慣れ親しんできた地域へ出かけ、友人に会ったり、買い物をして、馴染みの関係が継続するように支援している。個別支援では、担当者が利用者一人ひとりの思いを丁寧に聞き、利用者が育った生家へ出かけたりにして、馴染みの人や場との接点が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が日常生活の中で助け合える関係作り心掛け、仲間意識を持てるように支援している。また、共有する空間で孤立するご入居者がいないように、職員が間に入り、関係を取り持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状況の変化で契約を終了してからも、これまでの暮らしが引き継いでいけるように、生活面や身体面での情報提供を行っている。また、他施設入所や入院時には、ご本人やご家族からの支援相談を受けて、関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いに耳を傾け、一人ひとりの思いの把握に努めている。ケアプラン更新時は、ご本人やご家族から意向を聞き、プランに反映させている。また、意向の把握が困難な場合は、ユニットカンファレンスで家族からの情報などから検討し、その人らしい生活が送れるように職員で検討を行っている。	利用者一人ひとりの担当者を決め、本人を支えながら丁寧にアプローチをすることで、一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、カンファレンス等で情報を共有し、ケアに活かしている。把握が困難な場合は、家族等から情報を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしの様子を、情報提供書やご家族、介護支援専門員から伺い、把握している。また、その情報を、新規入居者カンファレンスで皆に周知するとともに、在宅での日課や趣味が継続できるように検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者の食事・睡眠・排泄状況や日頃の言動、体調の変化、サービス項目等を、ケース記録に詳しく正確に記録することで、職員全員が把握し、一人ひとりに応じた必要な支援が提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、まずはご本人とご家族の要望を伺い、月1回の入居者カンファレンスで、ご本人がよりよい生活を送り満足を得られるよう、職員間で意見を出し合い、作成を行っている。ご入居者に変化があった時やご家族から要望があった際は、その都度個別のカンファレンスを開催している。モニタリングについても3ヶ月毎に実施している。	介護計画立案時には、利用者や家族等から意見や要望を聞き、職員は入居者カンファレンスで情報を共有し、一人ひとりの介護計画を作成している。介護計画は、定期的に見直しをしており、利用者や家族等において状況が変化した場合には、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の様子・言動・状態の変化などの気づきや工夫を、個別記録や申し送りノートに記録している。出勤時に各自で記録に目を通し、口頭でも申し送りを行うことで、職員間で情報共有を図っている。月1回のユニットカンファレンスで課題の解決を話し合い、必要に応じて介護計画の変更や追加を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の状況を把握し、当法人内の介護支援専門員、看護師、管理栄養士など各職種間との連携を図りながら、話し合いや勉強会での意見交換を日々のケアに繋げ、一人ひとりに望ましいケアプラン作成を行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の食材の買い物は、地域の店舗へ職員と一緒に買い出しに出かけている。町の文化祭に作品を出品したり、近くの高校や地区の文化祭に招待されたり、外出機会を作ることで、昔の顔なじみや知人に会い話が弾むことも多い。また、地域の児童が収穫した野菜を持って訪問してくれて、交流が図れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望される医療機関や通院方法を確認し、なじみのかかりつけ医院での受診を継続できるように支援している。かかりつけ医に受診時に報告を行い、助言を頂くなどして、ご入居者の情報を共有し、連携が図れるように配慮している。また緊急時や夜間については、協力医療機関で適切な医療を受けられるように支援している。	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。必要時には、家族と一緒に職員が診察に同行し、医師に利用者の普段の様子や変化などの情報を伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人の看護師と日頃から情報を共有し、緊急時や介護職員で判断がつかない場合は相談し、指示を仰ぎ、適切な受診と治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、速やかに医療機関へ情報提供書を提出し、連携が図れるようにしている。入院時は、管理者や担当職員がお見舞いに行き、家族や看護師、ケアマネージャーと情報交換を行い、早期退院に向けての支援体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化の指針を提示して、重度になられた場合の対応について説明を行い、同意書を頂いている。利用者の身体状況や認知症状は、毎月書面にて報告しており、ご家族に現状をご理解頂いている。急変時や重度になった場合は、ご本人やご家族の希望や意向を聞き、かかりつけ医と相談しながら、今後の対応を検討し、全職員が方向性を共有・統一できるように努めている。	当事業所では、看取り介護はしておらず、入居時に「重度化対応について(事前確認書)」を提示して、事業所の対応について説明をし、同意書をもらっている。毎月、担当者が家族等に利用者の身体や認知症等の状況について、書面で知らせたり、家族会で説明し、家族の理解が得られるようにしている。状況が変化した場合には、その都度、話し合い、方針を確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、緊急時対応マニュアルを作成している。ご入居者個々の事故防止プランを作成し、課題と対策を明確にして、全職員と家族で共有できるようにしている。また、当法人の看護師による勉強会と年1回消防署員による救急法講習で、応急処置、心肺蘇生法、AEDの使用方法などを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を立案し、年2回、様々な場面や災害を想定した防災訓練を、できるだけ本番に近い状態に再現して実施している。また、災害時に地域の方と連携できるように防災訓練に参加して頂いている。防災訓練を行っての課題や反省点については、隔月で行っている防災研修で、改善が図れるように努めている。	年2回実践的な訓練を実施し、2か月毎に開催している防災研修会で、訓練時の課題や反省点について話し合い、より具体的な避難策等について検討している。訓練には、地域の方々の参加があり、事業所の災害対策への理解を深めてもらい、協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会が定期的に接遇研修を行い、挨拶や言葉遣いが適切なものであるか、その都度職員間で確認している。そしてご入居者一人ひとりの立場に立って、その人格や誇り、プライバシーを損ねない言葉かけや対応について考えている。また、理念にある「尊厳を守る」とはどういうことかを職員に周知し、全職員が利用者の人格を尊重した対応ができるように取り組んでいる。	サービス向上委員会が、定期的に接遇研修を行い、電話対応の仕方や挨拶、言葉づかいについて学び、職員間で確認し、接遇改善に努めている。理念の中にある「尊厳を守る」とは、どのようなことなのかを職員に周知し、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援となるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子観察や何気ない会話、行動、表情からご本人の思いや真のニーズを引き出す対応を心がけている。またすべての生活場面で入居者自身が自己決定できる機会を作り、「利用者の思いに応えるケア」ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとり、起床時間や食事、入浴などご入居者のこれまでの生活スタイルやその日の気分、体調に合わせてサービス提供を行っている。また、趣味や好みの活動が継続できるように時間を作ったり、必要な準備物の購入など、ご本人と相談しながら行っている。希望をうまく伝えられない方の場合も、ご本人の反応を見て活動の提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの装いができるように、ショッピングに出かけ、洋服を購入したり、自分で着る洋服を声掛けして選択してもらっている。また、外出時は希望に応じて化粧やカラーリングを行い、リラクゼーション活動として、パックやネイル、マッサージなどを定期的に行い、おしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し時にご入居者の方に同行して頂き、新鮮な旬の食材を購入している。また、中庭で収穫した野菜や地域の方から頂いた野菜を、使用することもある。メニューについてご入居者から要望があれば、メニューを変更して柔軟に対応している。準備や片付けも可能な方は、一緒に行っている。また、中庭ピクニックや外食、陽だまりカフェなどを定期的に行い、ご入居者の食べることを楽しめるように努めている。	利用者の希望を取り入れ、職員が献立を決めている。食材の買い出しや食事の準備、後片付けなどは、職員と利用者が一緒に行っている。野菜は、事業所の中庭で育てた物や近所の方から頂いたものを利用することがある。職員は、利用者と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら利用者と同じ料理を食べている。また、中庭でのピクニック、陽だまりカフェや外食など、食事を楽しめる支援をしている。昼食時には、家族が面会に来て、利用者と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人の管理栄養士が献立をチェックし、食べる量や栄養バランスに留意している。摂取表の記録を行い、摂取量の少ない方には補食の提供など個別に対応している。また、月1回体重測定を行い、体重の増減に伴い提供量を変更している。水分補給についても勉強会を行い、不足から体調不良を招かないように、好みの飲み物を提供するなど、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度から発足した介護力向上委員会で、口腔ケアについて取り組みを行った。その結果、ご入居者一人ひとりが、毎食後に丁寧に口腔ケアを行うことができるようになった。また、口腔ケア時に口の中の状態観察を行い、異変や義歯の不具合等があった際は、早期にご家族に連絡し、受診や往診を勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心やプライバシーに配慮し、個々の排泄パターンを把握しながら、声掛けや誘導を行い、本人にあった排泄が行えるように心掛けている。	利用者一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援をしている。一人ひとりのサインを見逃さないように介助している。自尊心やプライバシーに配慮した声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに食物繊維や水分を多く含んだ食物を取り入れ、体操や散歩、腹部マッサージを行って、腸の蠕動を助けている。便秘気味の方も極力薬に頼らず、オリゴ糖やヨーグルトを提供し、自然な排便に繋がるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望に沿って、入浴回数や時間帯、順番を決めている。また、個浴や仲の良い方と入りたい、外出後に入りたいなどの個々の要望は、その都度聞き入れている。また、季節にはゆず湯や菖蒲湯など行い、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に合わせて入浴できるように支援しており、毎日入浴している人がいる。日中の時間帯で、利用者が希望する時間帯や順番等を確認して入浴してもらっている。利用者からの要望で、季節にはゆず湯や菖蒲湯を行い利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動過多のご入居者や身体状況・年齢に応じて、休息や午睡の声掛けを行っている。また、夜間安眠できるように、日中は体操や散歩、レクリエーション活動の参加で適度な活動を促し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬や外用薬の効能、用量、服用時間を記載した一覧表を作成し、全職員が把握している。また、新しく処方された内服薬や変更があった場合は、申し送りノートに記録するとともに、口頭でも伝え情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを、ご本人やご家族に聞き、ADLの状態も踏まえ、役割や活躍の場(洗濯や清掃、調理、食器洗いなど)を提供しているが、皆さん生き生きとこなされている。また、カラオケや裁縫、書道、園芸、華道、料理、手芸など、好きだったことや趣味などを継続できるよう個々に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋内だけで過ごすことがないよう、気分転換のため、散歩や買い物を計画し、ご入居者全員が参加できるようにしている。また、ご本人が行きたい場所や懐かしい場所などへ、職員と一対一で行けるように個別外出を実施している。その他、季節ごとの花々の見物や地域の文化祭、学園祭、芸能大会、お祭りなどに行くことによって、地域の方と交流するよい機会になっている。ご家族にも、お盆やお正月に自宅でご過ごしていただけるようお願いしている。	毎日、散歩や外出、買い出しなどで、積極的に外出を支援し、気分転換や五感を刺激する機会としている。利用者の希望する場所に、職員と一対一で出かける個別外出を行っている。また、お花見や地域の文化祭、学園祭、お祭り等の地域行事に出かけている。正月やお盆は、自宅でごされるよう家族に依頼している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったご本人の小遣いはグループホームで管理しているが、ご本人が管理されている方も一部おられる。買い物を希望される時は職員と一緒に掛付け、お金を自身で支払って好みの物を購入されている。意思表示ができない方については、必要なものを見極めて、購入できるようご家族と相談しながら職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にご本人の思いを伝え、ご本人の希望があった際は電話を掛けられるように支援している。現在、手紙のやり取りをされる方はいないが、年賀状は職員と一緒に作成し、ご家族や知人に送付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の採光は、天窗やカーテンで調整し、室温は温湿度計を設置し、管理しながら換気や衣類で調節し、快適に過ごせるように心掛けている。壁面には、外出時の写真や季節に応じた手作りの作品を掲示し、季節の花々を飾ることで心地よい空間になっており、ご入居者からも好評である。	玄関には、色々な鉢植えが置いてあり、落ち着いた雰囲気を感じることができる。居間兼食堂は天井も高く、天窗から光が差し明るい空間となっている。室内には利用者の外出時の写真や手作り作品を掲示したり、季節の花を生けたりしている。温湿度計を設置し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座る場所は、気の合うご入居者同士で話ができるように配慮し、会話も弾んでいる。また、共有スペースにソファを置いて、個々でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人やご家族に、馴染みの物や好みの物を持参して下さるように説明を行っている。机や椅子、お位牌、テレビ、食器、本など、思い思いの物を持ち込まれている。居室には、ご家族との写真や思い出の品を掲示するなど、落ち着いて心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベッドやタンス、洗面台、いす、クローゼットが設置されている。利用者は思い思いに、机やテレビ、冷蔵庫、図書等を持参し、思い出の写真や家族が描いた似顔絵、家族からプレゼントされたお花等が飾られ、利用者一人ひとりが、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりにくくなっているご入居者に対しては、座席にネームを貼ったり、居室に表札、トイレには分かりやすく目印をつけて、混乱しないように配慮している。歩行器や老人車を使用する方には、置き場を設け、動線を確保して、安全に生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊中福祉会の基本理念を具現化することで、言葉に込められた意味を十分理解し、福祉施設サービスを通して地域貢献を果たせるよう日々努力している。また理念に沿った事業計画を立て、それらを職員が共有して個々の目標とし、実現できるよう努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている年4回の地域の奉仕作業に参加している。(川さらえ2回、空き缶拾い2回)また、今年度で3回目となった地域交流事業「わきあい愛会」に地域の方や子供たちを招待し、地域のボランティアの方々と共に、バザーや出し物を披露したり、ミニ運動会などを行うことで、交流の場が持てている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人の支援センターが主催する「介護者教室」において、地域の方に向けた認知症の理解や支援の方法についての勉強会を開催している。グループホームの職員も共に参加し、おやつを作ったり、栄養指導をともに受けた。介護されているご家族の悩みを聞き、普段の介護実践を活かし、ご家族にアドバイスも行った。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、地域代表の方、そしてご家族にも参加いただき、行事やサービス内容、グループホームの取り組み状況について報告、情報交換を行っている。会議でいただいた率直な意見や情報は、職員に周知して、運営に活かし、サービスの質の向上につなげている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が定期的に市役所に出向き、市担当者と連絡を取っている。また運営推進会議にも参加いただいております。その際に取り組みや実情を報告し、アドバイスをもらったり、市の新しい動向や取り組み内容を教えていただき情報収集を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が中心となり、「身体拘束ゼロへの手引き」にて勉強会を実施し、身体拘束の対象となる具体的な行為について正しく理解できるように努めている。また、「言葉による拘束」についても、言い換え等を検討したり、目標を設定して朝礼で唱和することで、意識向上を図っている。現在、身体拘束にあたるような方はいないが、身体拘束にならないための取り組みとして、日々の生活の中で制限となっている事柄について、生活改善策を立案して、実施し、定期的に見直すことで、ケアの質の向上に活かしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体では、リーダー会で勉強会の内容の検討や取り組みについて協議し、結果を職員に周知している。虐待の意識アンケートや高齢者虐待関連法に関する勉強会を実施することで、全職員が何が身体拘束で何が虐待にあたるか、どう対応したらよいか考える機会を持つようにしている。また「不適切なケア」について具体的な事例をあげ、存在しないか互いに検証しあうことで、「虐待の芽」を摘み、早期対応に努めている。グループホーム内でも2か月に一度、ケア会議時に虐待防止に関する勉強会を実施して、定期的に学び考える機会を設けている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいることから、外部研修に参加した職員から伝達研修を行い、全職員で権利擁護や制度について学ぶ機会を設けた。また、リーフレットを職員で回覧し、知識を深めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いて、グループホームの特徴や利用料金などの説明を行い、ご本人やご家族に理解、納得していただけるように努めている。本年度は介護保険制度および介護報酬の改訂、当グループホーム利用料金の改定があり、報酬加算の必要性や料金改定の理由を、運営推進会議や家族会において十分説明し、理解や納得を図ることができた。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議や家族会などで出てきた意見や、日々の面会時のコミュニケーションから得た意見や要望を、代表者に報告し運営に反映している。また、ご入居者の要望も聞き、サービス向上に努めている。ご家族とも意見を言いやすい関係づくりに、日々努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ケア会議で職員同士の意見交換を行い、意見や提案を聞いている。出てきた意見は、皆で話し合い運営に反映させている。また、職員間で意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標参画、OJTシートを取り入れ、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。また代表者が、管理者や職員の意見、要望に耳を傾け、働きやすい職場環境や条件の整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を把握し、個々に合った内容やレベルの法人内外への研修会へ参加を促し、スキルアップを薦めている。研修してきた内容は、ケア会議で伝達研修を行い、職員間で情報を共有している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会で定期的に行われている研修に参加し、意見交換の場において他事業所および同業者との交流を図り、ネットワークづくりに努めている。また、地域の同業者による「認知症を学び支える会」に、毎年当法人内から実行委員を派遣し、交流を図っている。また、その勉強会にも参加し、他事業所主催の研修に招かれ参加することで、互いに知識を深め、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人に関する情報把握に努め、思いや要望、不安なことを十分に聞き取り、ケアプランに反映させている。また安心して生活していただけるよう支援し、よりよい関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っていること、不安や要望をしっかりと汲み取り、安心して利用できるよう、信頼関係づくりに努めている。また、些細なことでも遠慮せずに、何でも相談に応じられる雰囲気づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時は、ご本人やご家族が何を求めているのか、ご本人に何が必要か、ご本人を十分理解し、見極められるよう話を聞き、観察を行っている。また、必要に応じて、他のサービスの利用について検討を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活を共にする者として毎日を大切に、その人に合った楽しみや話題づくりに努めている。また個々の有する能力を發揮してもらい、互いに共感でき、支え合える関係づくりに努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運営推進会議の際に、グループホームの取り組みや実情を伝え、また日々の面会時にも積極的にコミュニケーションを図ることで、職員とご家族がともに手を取り、ご本人を支えていけるよう、良好な関係づくりに努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域で散歩、外出、買い出しに積極的に出掛けている。また個別ケアとしてご本人やご家族と相談して、慣れ親しんだ場所や自宅、若かりし頃に過ごした思い出の場所に行く機会を設け、馴染みの関係が途切れないように努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が日常生活の中で助け合える関係作りに心掛け、仲間意識を持てるように支援している。また、共有する空間で孤立するご入居者がいないように、職員が間に入り、関係を取り持てるように配慮している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状況の変化で契約を終了してからも、これまでの暮らしが引き継いでいけるように、生活面や身体面での情報提供を行っている。また、他施設入所や入院時には、ご本人やご家族からの支援相談を受けて、関係の継続に努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いに耳を傾け、一人ひとりの思いの把握に努めている。ケアプラン更新時は、ご本人やご家族から意向を聞き、プランに反映させている。また、意向の把握が困難な場合は、ユニットカンファレンスで家族からの情報などから検討し、その人らしい生活が送れるように職員で検討を行っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしの様子を、情報提供書やご家族、介護支援専門員から伺い、把握している。また、その情報を、新規入居者カンファレンスで皆に周知するとともに、在宅での日課や趣味が継続できるように検討している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者の食事・睡眠・排泄状況や日頃の言動、体調の変化、サービス項目等を、ケース記録に詳しく正確に記録することで、職員全員が把握し、一人ひとりに応じた必要な支援が提供できるように努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、まずはご本人とご家族の要望を伺い、月1回の入居者カンファレンスで、ご本人がよりよい生活を送り満足を得られるよう、職員間で意見を出し合い、作成を行っている。ご入居者に変化があった時やご家族から要望があった際は、その都度個別のカンファレンスを開催している。モニタリングについても3ヶ月毎に実施している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の様子・言動・状態の変化などの気づきや工夫を、個別記録や申し送りノートに記録している。出勤時に各自で記録に目を通し、口頭でも申し送りを行うことで、職員間で情報共有を図っている。月1回のユニットカンファレンスで課題の解決を話し合い、必要に応じて介護計画の変更や追加を行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の状況を把握し、当法人内の介護支援専門員、看護師、管理栄養士など各職種間との連携を図りながら、話し合いや勉強会での意見交換を日々のケアに繋げ、一人ひとりに望ましいケアプラン作成を行えるように取り組んでいる。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の食材の買い物は、地域の店舗へ職員と一緒に買い出しに出かけている。町の文化祭に作品を出品したり、近くの高校や地区の文化祭に招待されたり、外出機会を作ることで、昔の顔なじみや知人に会い話が弾むことも多い。また、地域の児童が収穫した野菜を持って訪問してくれて、交流が図れている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望される医療機関や通院方法を確認し、なじみのかかりつけ医院での受診を継続できるように支援している。かかりつけ医に受診時に報告を行い、助言を頂くなどして、ご入居者の情報を共有し、連携が図れるように配慮している。また緊急時や夜間については、協力医療機関で適切な医療を受けられるように支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人の看護師と日頃から情報を共有し、緊急時や介護職員で判断がつかない場合は相談し、指示を仰ぎ、適切な受診と治療が受けられるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、速やかに医療機関へ情報提供書を提出し、連携が図れるようにしている。入院時は、管理者や担当職員がお見舞いに行き、家族や看護師、ケアマネージャーと情報交換を行い、早期退院に向けての支援体制を整えている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化の指針を提示して、重度になられた場合の対応について説明を行い、同意書を頂いている。利用者の身体状況や認知症状は、毎月書面にて報告しており、ご家族に現状をご理解頂いている。急変時や重度になった場合は、ご本人やご家族の希望や意向を聞き、かかりつけ医と相談しながら、今後の対応を検討し、全職員が方向性を共有・統一できるように努めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、緊急時対応マニュアルを作成している。ご入居者個々の事故防止プランを作成し、課題と対策を明確にして、全職員と家族で共有できるようにしている。また、当法人の看護師による勉強会と年1回消防署員による救急法講習で、応急処置、心肺蘇生法、AEDの使用方法などを学んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を立案し、年2回、様々な場面や災害を想定した防災訓練を、できるだけ本番に近い状態に再現して実施している。また、災害時に地域の方と連携できるように防災訓練に参加して頂いている。防災訓練を行っての課題や反省点については、隔月で行っている防災研修で、改善が図れるように努めている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会が定期的に接遇研修を行い、挨拶や言葉遣いが適切なものであるか、その都度職員間で確認している。そしてご入居者一人ひとりの立場に立って、その人格や誇り、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応について考えている。また、理念にある「尊厳を守る」とはどういうことかを職員に周知し、全職員が利用者の人格を尊重した対応ができるように取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子観察や何気ない会話、行動、表情からご本人の思いや真のニーズを引き出す対応を心がけている。またすべての生活場面で入居者自身が自己決定できる機会を作り、「利用者の想いに応えるケア」ができるよう努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとり、起床時間や食事、入浴などご入居者のこれまでの生活スタイルやその日の気分、体調に合わせてサービス提供を行っている。また、趣味や好みの活動が継続できるように時間を作ったり、必要な準備物の購入など、ご本人と相談しながら行っている。希望をうまく伝えられない方も、ご本人の反応を見て活動の提供を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの装いができるように、ショッピングに出かけ、洋服を購入したり、自分で着る洋服を声掛けして選択してもらっている。また、外出時は希望に応じて化粧やカラーリングを行い、リラクゼーション活動として、パックやネイル、マッサージなどを定期的に行い、おしゃれの支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し時にご入居者の方に同行して頂き、新鮮な旬の食材を購入している。また、中庭で収穫した野菜や地域の方から頂いた野菜を、使用することもある。メニューについてご入居者から要望があれば、メニューを変更して柔軟に対応している。準備や片付けも可能な方は、一緒に行っている。また、中庭ピクニックや外食、陽だまりカフェなどを定期的に行い、ご入居者の食べることを楽しめるように努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人の管理栄養士が献立をチェックし、食べる量や栄養バランスに留意している。摂取表の記録を行い、摂取量の少ない方には補食の提供など個別に対応している。また、月1回体重測定を行い、体重の増減に伴い提供量を変更している。水分補給についても勉強会を行い、不足から体調不良を招かないように、好みの飲み物を提供するなど、工夫している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度から発足した介護力向上委員会で、口腔ケアについて取り組みを行った。その結果、ご入居者一人ひとりが、毎食後に丁寧に口腔ケアを行うことができるようになった。また、口腔ケア時に口の中の状態観察を行い、異変や義歯の不具合等があった際は、早期にご家族に連絡し、受診や往診を勧めている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心やプライバシーに配慮し、個々の排泄パターンを把握しながら、声掛けや誘導を行い、本人にあった排泄が行えるように心掛けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに食物繊維や水分を多く含んだ食物を取り入れ、体操や散歩、腹部マッサージを行って、腸の蠕動を助けている。便秘気味の方も極力薬に頼らず、オリゴ糖やヨーグルトを提供し、自然な排便に繋がるように心掛けている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望に沿って、入浴回数や時間帯、順番を決めている。また、個浴や仲の良い方と入りたい、外出後に入りたいなどの個々の要望は、その都度聞き入れている。また、季節にはゆず湯や菖蒲湯など行い、入浴を楽しめるように支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動過多のご入居者や身体状況・年齢に応じて、休息や午睡の声掛けを行っている。また、夜間安眠できるように、日中は体操や散歩、レクリエーション活動の参加で適度な活動を促し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬や外用薬の効能、用量、服用時間を記載した一覧表を作成し、全職員が把握している。また、新しく処方された内服薬や変更があった場合は、申し送りノートに記録するとともに、口頭でも伝え情報共有に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを、ご本人やご家族に聞き、ADLの状態も踏まえ、役割や活躍の場(洗濯や清掃、調理、食器洗いなど)を提供しているが、皆さん生き生きとこなされている。また、カラオケや裁縫、書道、園芸、華道、料理、手芸など、好きだったことや趣味などを継続できるよう個々に支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋内だけで過ごすことがないよう、気分転換のため、散歩や買い物を計画し、ご入居者全員が参加できるようにしている。また、ご本人が行きたい場所や懐かしい場所などへ、職員と一対一で行けるように個別外出を実施している。その他、季節ごとの花々の見物や地域の文化祭、学園祭、芸能大会、お祭りなどに行くことによって、地域の方と交流するよい機会になっている。ご家族にも、お盆やお正月に自宅で過ごしていただけるようお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から預かったご本人の小遣いはグループホームで管理しているが、ご本人が管理されている方も一部おられる。買い物希望される時は職員と一緒に掛付け、お金を自身で支払って好みの物を購入されている。意思表示ができない方については、必要なものを見極めて、購入できるようご家族と相談しながら職員が代行している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族にご本人の思いを伝え、ご本人の希望があった際は電話を掛けられるように支援している。現在、手紙のやりとりをされる方はいないが、年賀状は職員と一緒に作成し、ご家族や知人に送付している。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間の採光は、天窓やカーテンで調整し、室温は温湿度計を設置し、管理しながら換気や衣類で調節し、快適に過ごせるように心掛けている。壁面には、外出時の写真や季節に応じた手作りの作品を掲示し、季節の花々を飾ることで心地よい空間になっており、ご入居者からも好評である。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの配置や座る場所は、気の合うご入居者同士で話ができるように配慮し、会話も弾んでいる。また、共有スペースにソファを置いて、個々でくつろげるスペースを作っている。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際にご本人やご家族に、馴染みの物や好みの物を持参して下さるように説明を行っている。机や椅子、お位牌、テレビ、食器、本など、思い思いの物を持ち込まれている。居室には、ご家族との写真や思い出の品を掲示するなど、落ち着いて心地よく過ごせるように工夫している。</p>

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりにくくなっているご入居者に対しては、座席にネームを貼ったり、居室に表札、トイレには分かりやすく目印をつけて、混乱しないように配慮している。歩行器や老人車を使用する方には、置き場を設け、動線を確保して、安全に生活が送れるように支援している。